

日々の田高（能登訪問に行ってきました。）

令和8年3月29日から30日にかけて、本校生徒3名は、他校の生徒4名とともに、石川県輪島市門前町を訪れました。能登半島地震から約2年3か月、能登半島豪雨から約1年6か月が経過した今、災害の現場に触れ、災害とは何か考え、首都直下型地震をはじめとする災害への対応について、見学や交流・ボランティア活動を通して学び、田園調布高校生徒へ還元していくことを目的に、被害に遭った現地を訪れました。

生徒たちは「①被災した空き家を活用し、地域住民と外部から訪れる人々が交流できる場として整備が進められている「皆の宿」の訪問、②輪島市門前町で生まれ育ち、現在は門前町の町おこしに取り組んでいる宮下杏里さんの講話、③宮下杏里さんも交えた、能登の新鮮な食材を使った料理による夕食、④仮設住宅が並ぶ阿岸第1団地での地域住民とのたこ焼きイベント、⑤總持寺通り商店街での買い物や散策」を行いました。

今回の訪問を通して、生徒たちは災害の現実を自分の目で見て、耳で聞き、人と関わる中で多くの学びを得ることができました。災害は決して遠い出来事ではなく、いつ自分たちの身に起こるか分からないものであること、そして復興には長い時間と人と人とのつながりが不可欠であることを実感しました。後日、生徒の感想などを含めた報告をいたしますので、そちらもお待ちください。



宮下杏里さんの講話



能登の新鮮な食材を使った料理による夕食



地域住民とのたこ焼きイベント



總持寺通り商店街

宮下杏里さんの講話は、オンラインで東京とつなぎ、田園調布高校の同窓会の方もお話を伺いました。